

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】	
事業所番号	2875201101
法人名	有限会社 パートナー
事業所名	グループホーム パートナー伊川谷
所在地	兵庫県神戸市西區南別府4丁目368-1
自己評価作成日	令和1年11月22日
	評価結果市町村 受理日
	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】	
評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和4年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】  
ご利用者様お一人ひとりの実情に合わせ四季折々の行事を共に楽しんだり、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らして頂けるよう努めています。介護職員の教育にも力を入れ、笑顔が絶えない生活を送って頂けるよう日々心掛けています

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】  
【優れている点】毎月「パートナー通信」利用者の行事参加やを発行し、日常生活写真等を掲載し、定期的に家族に送付等行い喜ばれている。各階は静かな雰囲気を楽しむ方や楽しく語らう方等利用者特性に応じた割り当てを行い各々が楽しく過ごせるようにしている。  
【工夫点】利用者個々の暮らし方等配慮し各階メンバーや部屋を決めている。エレベーターを出た所が玄関である構造故、エレベーター前玄関にセンサーを設置し人が立つとチャイムが鳴る等の工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけたい (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階廊下に月刊誌と共に当該施設の理念を掲げ管理者と職員はその理念を共有し実践に繋げている。個々の個性を活かし人間としての尊敬を大切にしていへ事に日々努めている	各階玄関入った廊下掲示版に「人間としての尊敬を大切にし、家庭的な雰囲気でご利用者のある日常の支援を行います。」の理念を掲げ、管理者、職員は理念を共有し実践につなげている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍なのでご利用者様の身体安全を考慮え以前のような外部との接触は避けています	1階保育園、2階の医院及び隣接の薬局に來られる地域の方と接撃をかわしたりしていたが、現在はコロナ禍で外部との接触を自粛している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じビル内の医院と隣接している薬局に当該施設のパンプレットを設置させて頂き認知症への関心を持って頂く様に努力している			
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自施設サービス向上の為に近隣GHの管理者にも参加してもらいご利用者様やご家族様へのサービス内容や取り組み状況を報告、話し合いをし交流を深めている。以前の結果を踏まえ事故及びヒヤリハット報告書を作成し保存している	運営推進会議は、地域包括支援センター、地域住民代表者、利用者家族等参加のもと利用者状況、サービス現状、事故、ヒヤリハット報告等行いそこでの意見等をサービス向上に活かしている。	事故・ヒヤリハット報告で、各月事故数、ヒヤリハットは数への折れ線グラフを作成活用した見える化推進により、各階玄関に掲示し、安全な事業所としての更なる活動が期待される。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回管理者は市担当参加の西区GH連絡協議会に積極的に参加している。各GHの現状報告や最新の情報を交換し協力関係を築ける様に取り組んでいる	管理者は年4回開催の市担当参加の西区GH連絡協議会に積極的に参加し、現状報告すると共に、他GHの最新情報を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時個別に研修を行い身体拘束をしないケアの実践に努めている。年1回全体で研修を行いその内容をレポートにして提出している。拘束しないケアについて理解する為カンファレンスでも議論し正しいケアの実践に努めている。他にもエレベーター前にもセンサーを置き人が立つと鳴るチャイムをつけてたりと試行錯誤している	入社時研修及び年4回身体拘束しないケアへの研修を計画的に実施している。内年1回の全体研修を行いレポート提出し検証している。エレベーター出た所が玄関である構造であり、エレベーター前にセンサーを設置し人が立つとチャイムが鳴る等の工夫をしている。		
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に入社時個別研修を行っている。高齢者虐待防止関連法について学ぶ為年1回研修をし正しい介護支援ができる様注意を払い防止に努めている。研修後は身体拘束と同様にレポート提出し虐待が見逃ごされぬ様努めている	管理者及び職員は、身体拘束研修時に虐待防止関連法を学ぶ機会を持ち利用者への虐待が見逃ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。	研修計画に虐待防止研修の明記がない。これらの記載による研修実施が望まれる。	

自己第三者	項目	自己評価		外部評価
		実践状況	実践状況	
8	(7) 〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は成年後見制度をご利用されている関係者様と個々の必要性について話し合い関係性を築いている。	現在成年後見制度利用者が1名在籍しており、個々の必要性について学ぶ機会を持ち、関係者と話し合い支援をしている。	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8) 〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はやめ直し等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时にご家族様ご本人様へ施設を見て頂き改善等の不安事や疑問点をお聞きし資料を通し理解を図りご納得がいくまでご説明させて頂いております。十分納得した上でご契約して頂くよう努めている。	契約締結等に関し見学时に家族及び利用者に施設現状を見て頂き、不安や疑問点等同一理解、納得を図り、納得の上契約をしている。	
10	(9) 〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、TV電話、メッセージの際ご家族様のご意見・ご要望をお聞きし改善点があれば職員間でミーティングをし改善に努めている。他にごエレベーターホールにご意見箱を配置しご家族様からのご要望を取り入れる事に努めている	運営に関する利用者、家族等意見は、電話、TV電話、メッセージ等の際にご家族要望等を聴き改善点があれば職員間でミーティングし改善に努めている。玄関スペースに意見箱を設置しているがご意見はない現状である。	
11	(10) 〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3金曜日全体ミーティングを開催し各フロアの交流も兼ね、話し合いの場を設けている。職員の意見、提案を反映している。	各階の交流を兼ね毎月日程を決め全体ミーティングを実施し、柵が老朽化し、新設や各階1台設置の洗濯機の1台追加要望を検討中。	
12	〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和4年3月より就業環境については、「アクトパートナーズ」と委託契約をし、職員が向上心を持ち働ける環境の整備に努めている。		
13	〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設での研修はもちろん、外部研修も人材不足のなか1人でも多く受講していたり、今年度は1名実施者研修を受講予定です。		
14	〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者が西区GH連絡協議会や他施設の運営推進会議に積極的に参加し、交流の機会を持ち、自施設の悩みや問題点を相談したり、逆に相談を受けたりアドバイスをを行うたり、相互にサービスの質の向上に努めている。		

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	ご入居時ご本人様を交え面談を行いコミュニケーションを取り合う中で情報収集に努め全職員が情報共有でき、さぐるーフホームの個別ケアの観点到添った介護支援に努めている			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	ご面談時にご家族様のお話に耳を傾けご意見ご要望等の意向をお伺いしている。その上で当該施設の介護理念についても十分にお話させて頂き無理のない程度のご協力をお願いし良好な関係作りを努めている			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の身体状態に合った生活が送れる様なニーズの把握に努め、ご希望者には介護保険内でのリハビリやリハビリ等、多様なサービス提案を行うよう努めている			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者として日常生活の中で出来る事の役割分担を持って頂き居場所を確保するように努めている			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回を目安に身体状態の変化等を報告させて頂く事で、ご家族様と職員との信頼関係を気付くと共に遠方のご家族様や面会に来られないご家族様には月刊誌やTV電話でご報告させて頂きご本人様との関係が希薄にならない様に努めています			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様から頂いた家族写真を何時でも見られる様にご利用者様のお部屋に保管させて頂いたりTV電話等で馴染みの方々との関係が途切れない様努めています	これまでの地域社会との関わりを継続していくために、入居後も今までの暮らしの延長線であるよう支援している。コロナで面会禁止だがお孫さん等とWEBで面談を実施、電話やお手紙での連絡を取り持つなどつながらり継続をこころがけている。4月から面会再開予定。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にリビングには食事、レクリエーション以外にもみんなが参加できるような手作業、体操、運動を1日のタイムスケジュールにそって行っている(ただし体調不良の場合はのぞく)			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、相談や支援を必要とされていない取組みは行えていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居時に行う面談の中でご本人様ご家族様の希望意向を読み取る様に努め困難事例の場合は各機関や情報収集に努め本人に適正な援助をできるよう、より努めるようにしている	日々の関わりの中で声をかけ、想いの把握に努めている。本人がどのように暮らしたいのか、何をしたいのかを理解するために丁寧にアプローチしている。利用者の言葉にしっかりと思いを、日々の行動や表情の変化の把握に努め家族を含め一緒に検討している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時にご本人様とご家族様にケアシートを記入して頂き生活歴を伺ってこれまでの馴染みの暮らし方や生活環境やサービスの利用を把握する事を努めています		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご利用者様に寄り添い身体状態に気を配り状況共有に努め、対応の方法や介助の方法について情報交換を行い一人ひとりに寄り添った支援を心掛けています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで現状を職員間で話し合い、現支援が適切か新しいニーズは否ainか等を意見を出し合って試行錯誤しご家族様の意向や意見を踏まえ計画を見直し利用者様に寄り添った介護計画の作成に努めている	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、想いや意見を聞き、反映させるようにしている。自立支援を基本にケアマネジャーとユニツリーターでモニタリングを行い、カンファレンスでは、職員全員で意見を出し合いアイデアを反映し現状に即した計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録や連絡ノートに記入し日々の様子、結果や気づきを職員間で共有している。その際気づいた点を介護計画に組み込み見直しに活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の状況を考慮しつつ外部からの支援や施設内で出来る可能なサービスをその時々々のニーズに多機能化かつ柔軟に対応出来るよう取り組んでいます		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じビル内の医療機関にご利用者様の状態に合わせてスピーディに対応し活用している。往診や訪問散髪等も来て頂きご利用者様に安全で豊かな暮らしを楽しむよう支援している			
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診訪問があります。ご利用者様の状態に合わせてご家族様のご意見やご希望をお聞きし適切な医療が受けられる様に支援している	主治医は提携医による往診と24時間相談できる体制が整備され、また本人や家族の希望するかかりつけ医もいる。同じビル内にある歯科医院へ定期受診や義歯の調整などで通院している。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での情報や気づきは職場内の看護師に伝え指示を仰いだり主治医へ相談し薬局の協力を得て職員間で連携しご利用者様が適切な受診、看護を受けられるように支援している			
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医の紹介で入院目的を伝え介護サワリーの提供を行っている。病院関係者との情報交換等を図る体制を整えている。入院中ご家族様や病院と連絡を取り合い相談しご利用者様の状態の把握に努め早期退院できるように努めている	入院時は入院の目的を伝え、慣れない場合への本人のストレスや負担を軽減するために主治医による判断と紹介で安心して入院ができれば治療できるように支援体制が整っている。入院時には本人の普段の状況等情報を医療機関に提供している。		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化した場合、終末期の意思表示を文章にて確認。終末期においてはご家族様に再確認し医療機関、介護職員、介護支援専門員でカンファレンスを行い最良の終末期を迎えられるように支援している	事業所の力量や体制が、重度化や終末期に支ええていけるかを見極め、対応を検討している。契約時には、延命処置への意向確認をし、一度方針を決めても、本人、家族の意向は揺れ動きます。1年に1回は意向をあらたに確認しています。主治医の判断のもと納得した最期を迎えられるよう支援している。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の備えは緊急時マニュアルに記載されており保管場所も職員は認知している。迅速な対応を心掛けている。今後事故についての訓練を2カ月に1度行うことが決定している。その際に詳しい応急手当や初期対応の実践力を身につける様努める			
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署より水消火器を借り避難訓練を行っている。消防指導による最良の避難方法をマニュアル化し全職員周知を図り1回は夜間を想定した訓練を行っている。ペラントには避難用滑り台を設け速やかに避難できるように配置されている	年2回消防署より消火器を借り避難訓練を実施している。避難時は常時は閉めている廊下先扉を出たペラントに設置の非常用スベリにて3,4階から地上迄出られる設備がある。	非常食は1週間分各フロアに整備している。これらのリスト整備による運用が望まれる。	

自己 第三者	項目	自己評価 実践状況		外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご入居者様一人ひとりの人格を尊重し性格に合わせ誇りやプライバシーを確保しそれを損ねぬよう幼児言葉、命令調など言葉かけには心掛けています。ご本人様が思っている「現実」を否定せずざりげない介護援助を行うことを努めています	利用者の情報取戻した書類保管については、その情報の個別性や守秘義務について理解し、責任ある取扱いと管理徹底のため、鍵付きロッカーの設置など取り組んでいます。年長者として敬意を払い、馴れ合いの中でも本人を尊重した対応を心掛けています。			
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を表出して頂ける様お一人おひとりに寄り添い自己決定ができる様介護支援している。自己解決が困難な方には情報をできるだけ少なくし選択できる様努めている				
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご入居者様お一人おひとりのペースを大切にその日をどのように過ごしたかご本人様の希望を尊重し職員は情報を共有し、その人らしい暮らしを支援できる様に常に話し合い努力し、決して無理強いには行わない。				
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの色、柄などその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。施設での行事がある時にはよそ行きの身支度をし、お化粧を手伝わせて頂きその様子を写真などに納め展示している				
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時にはケーキやドリンクサービスを利用して食事を楽しんで頂ける様努めている。その他にもフルーツを使用しご入居者様の好みや力を活かしながら一緒にジュースを作ったり食を通じ様々な取り組みを活かし1日の大切な活動の1つにしている	食事は利用にとって力を発揮や役割を引き出す良い機会であり、暮らしの中で重要な位置にある。食器洗いやテーブル拭きなど個々の力を活かし取り組んでいる。おひな祭りはちらし寿司、お花見ではお弁当を提供します。食を通じた様々な活動を展開している。			
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量・食事量をチェックしており、ご利用者様に常にお茶とお菓子を用意させて頂き、嗜好の物を伺い提供させて頂いている。又お食事も普通食に限らず、お一人おひとりに合った形のお食事を提供している。				
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にお一人おひとりの口腔状態やご本人様の力に応じて口腔ケアを行っている。歯ブラシが困難な方もいらっしゃるので、ミミンゲットを使用して口腔内ケアに取り組んでいる。入れ歯の方もホリチント等の殺菌効果の高い物を使用しケアを行っている				

自己評価	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
自己	第三者				
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとり排泄パターンを把握する為に排泄子エック表に記入しながらご利用者様の様子など敏感に察知し自尊心を配慮しつつ声掛け誘導をし排泄支援を行っている。失敗した場合でもご本人様が傷つかぬ様、最良の配慮に気を配る事を努めている	自尊心に配慮し、利用者の様子は排泄子エック表で個々のサインを職員全員が把握しあからさまな誘導ではなく、さりげなく支援している。おむつやパット使用時は、どういう時間帯にどのようなものをしようするか根拠を明確にして、自立に向け常に見直しを行っている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目標に運動量、水分量、食事はこまめにチェックしている。薬ばかりに頼らぬ様カンフレンズで常に話し合っている。腹部マッサージを行ったりヨーグルトを食べたりビビールを飲まれたりと予防や対策を個々に応じて支援を行っている			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイムングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週2回ご入居者様のその日の要望に沿いながら無理強いせずお一人おひとりタイムングを探りながら楽しんでご入浴して頂ける様介護支援させて頂いている。声掛けや対応の工夫をして安心感をもって頂ける様努めている	利用者のその日の希望を確認し入浴したいだけ。入浴という行為は利用者の習慣や希望に多様性があり、それを活かし、職員二人体制で対応したり利用者の状態や心情を察した入浴支援を行っている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はシク等で活動して頂けるよう支援しているがお一人おひとりに合わせお昼寝が習慣の方やその日の体調等に合わせ支援している。夜間の安眠の為なるべく昼間リビングで過ごして頂けるように支援している			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬管理表はスタッフが閲覧できるようにしており、スタッフは薬の目的について理解している。お薬の管理も薬剤師の方がなされされており、服薬時利用者様のお名前を読み上げ服薬ミスがない様に努めている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝テレビ体操と手の体操を取り入れている。カラオケや塗り絵、洗濯たみややお食事の盛り付けやお盆拭き・洗い物等役割を持って頂き日々の張り合いになる様支援している。四季を楽しめる様職員が振り付きの歌を全員で歌えるよう準備し支援に努めている			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍でご入居者様の身体安全を考慮し行っていない	コロナ禍で外出行事は実施が難しいかし屋内だけで過ごすとしストレスがたまりやすく体調不良にもつながる。少しでも外気に触れる機会をもつていただくために、1階花壇でお花を育てたり、ベランダに出て歩行する機会にしている。春を迎え近隣のお散歩を再開やR4年4月にイチョコ狩りを計画している。		



自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ご利用者様がお金を所持する事はないのですが、事務所でお預り金として個別に管理し必要な物、嗜好の物がほしい時には可能な範囲でご利用者様の希望に添うように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話やご自身の携帯を使ってご家族様へ電話をしている。お手紙のやり取りをさせていただきます			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板や玄関(EVホール)には季節の物を一緒に作成して飾り時節を感じて頂けるように心掛けられている。ご入居者様にとって不快や混乱を招く刺激物が無い様に配慮している。玄関にセンサーライトを取り入れ心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮し、掲示板や玄関ホールに季節の物を置く等居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係を理解し、リビングには、テーブルを5〜6ご設置し、それぞれの居場所を作っている。ご利用者様の希望により職員は臨機応変に対応し、寛げる空間づくりに対応している。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際ご自身の愛着のある生活用品を持って来て頂いてご使用して頂いている。現在家族写真を貼っている部屋は継続しご入居者様の状態に合わせてできる限り家族写真を用意している。個々の好みに合わせ支援している	入居時に愛着のある生活用品や家族写真等貼る等使い慣れたものや好みの品を活かして本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全な環境を整えているのでご利用者様お一人おひとりの現状をにづいてカンファレンスで話し合い、出来る事分かる事を活かして安全に自立した生活が送れる様工夫、支援している			